



みどりの森くろつち学園小郡市立立石中学校 令和8年5月26日

立石中学校だより 校長 野中文明 第4号

【学教育目標】郷土を愛し、自分で考え、自ら行動する子どもの育成

【重点目標】自分の考えや意見を分かりやすく伝える 【合言葉】思ったことを伝え合う教室に



子ども達の力は無限大！仲間と力を合わせることの良さをずっと覚えていてほしい。

一生懸命だからこそ楽しい！最高の笑顔でした。

5月17日（日）に体育大会が開催されました。朝から気持ちの良い青空で絶好の体育大会日和でした。当日は、多くの保護者、来賓、地域の方々にご参観いただき、たくさんのご声援や拍手をいただきました。本当にありがとうございました。私自身は初めて見ましたが、立石中の体育大会は、皆さん自身が「みんなが輝くこと」を目指し、実際に「みんなが輝くこと」を実現することができる素晴らしい体育大会だと思いました。皆さんの逞しさを感じるとともに、とても嬉しく思いました。そして、何より自分たちで作上げようという意志が見えたことがとても良かったです。さて、日本には、昔からの「守・破・離／（しゅ・は・り）」という上達の（3つの）段階を表す言葉があります。

- ① 守…師から教えられたことを忠実に守って実行する。
- ② 破…師から教えられたことに、自分なりの工夫を加えて実行する。
- ③ 離…師から教えられたことを離れて、自分なりのやり方で実行する。

本校の学校教育目標の中には、「自分で考え、自ら行動する」という言葉があります。これは、一言で言えば「主体性」です。ちょっと自分自身を客観的に見てください。皆さんは、今、①～③のどの段階にいらっしゃるのでしょうか？私は、体育大会を単なるイベントにしてほしくはないと思っています。私にとっての体育大会は、学びの場です。皆さんが、体育大会の取り組みの中で、さまざまな経験や人との関わりを通して、自然と「自分で考える」ことや「自ら行動する」ことが身についたり、その必要性に気づいてくれたりしたらいいなと思っています。改めて皆さんに問います。体育大会の前は、①～③のどの段階でしたか？そして、体育大会が終わった今は、①～③のどの段階ですか？①でも②でも③でもいいです。しかし、なぜ自分の今の段階が①なのか？②になるためには、自分がどのように変わらなければならないのか？そこを自分自身と対話できると、体育大会が単なる体験ではなく、学びへと変わると思います。ぜひ、自分自身と対話をしてください。

保護者の皆様、ご協力ありがとうございました！

保護者の皆様には、早朝からテントの設営や競技への参加など、応援だけではなく体育大会を作る一人としてご協力をいただき、誠にありがとうございました。テントの設営ひとつにしても、こんなに多くの保護者の皆様に参加いただけるのかと感激いたしました。地域の方々も含めて学校を応援していただいているということを実感いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。



6月5日（金）授業参観でお待ちしています。

6月5日（金）に人権学習を公開します。体育大会同様、多くの皆様のご参観をお願いします。私は、人権を学ぶことは「自分が幸せになる」「他人が幸せになる」ことを妨げない、人生を豊かにしてくれるものだと思っています。一緒に語りましょう！



実は…目標には立て方があります ➡ スマート(SMART)の法則

前回、皆さんには「やりたいこと」を考えて頂きました。中には、実際に見せてくれた人もいました。「あっ、こんな人になりたいんだ!」とか「だから、こんな仕事につきたいと考えているんだ!」など、私にとっての発見や気づきがありました。見せてくれた人、ありがとうございました。

さて、皆さんの教室には、**今年の皆さん自身の目標**が貼ってあります。それらの目標は、「自分はこうなりたい」というものなので、ぜひ達成してほしいと思っていますし、応援したいと思っています。しかし、皆さんの目標を見ていて、ちょっとだけ気になることがあります。それは・・・達成できたかどうかをどうやって評価するのだろうか?ということです。

例えば、4月に「数学の点数をあげたい」という目標を設定したとします。3月に達成できたかどうかを振り返るとき、達成できたと評価できるのはどんな場合なのでしょう?つまり「いったい、どれくらい点数が上がれば、目標が達成できたと判断できるのでしょうか?」ひょっとしたら自分の中では、明確な基準があるのかもしれませんが、上記のような「数学の点数をあげたい」という表現だけでは、その判断基準が分かりません。

実は、**目標には立て方**があります。「**スマート(SMART)の法則**」というものです。SMARTとは、次の5つの単語の頭文字をとっています。

S (Specific) 具体的か?

M (Measurable) 「達成できたかどうか」を確かめることができるか? (数字があるか?)

A (Achievable) 達成可能か?

R (Relevant) 「なりたい自分」につながるか? (本気でやりたいと思えるか?)

T (Time-bound) 明確な期限があるか?

単語1つ1つを覚える必要はありませんが、目標を立てる際にはこの5つが含まれていることが必要です。

そこで「数学の点数をあげたい」という目標を例にして解説していきます。まず、この目標は、「**目標として不適切**」なのでしょうか?そうではありません。それは、

○ 自分が成長したいという気持ちがある

○ 自分が成長するために克服すべき課題が、自分自身で分かっている

からです。しかし、やや曖昧な面が見られますので、達成できる確率を上げるために、もう少し**具体的な目標**にしていきます。(Specific)

まず、達成できたかどうかを判断できるように、具体的な目標とする**数字を設定**しましょう。(Measurable) ここで気をつけるのは、その数字が**本当に達成できるのか?**と言うことです。(Achievable) 極端な例えをすると、数学が苦手な4月のテストが30点だった人が、1学期の期末試験で90点という目標を立てたとしても、達成することができるでしょうか?気持ちは分かりますが、実際には難しいと思います。ではどうするのか?最終的なゴールは90点だとしても、階段を登るようなイメージで**細かく何回かに分けて設定**します。その際に1回ごとに登る階段は、**少し背伸びをすれば何とか達成できそうな点数**に設定します。特に最初は、無理のない範囲で設定することが大切です。ここで期限の出番です。(Time-bound) 細かく分けた目標一つひとつを**いつまでに達成するのか**ということを決めます。

1年生を例にとると、

期限	4/13	6/12	8/28	9/25	10/20	1/12	2/25
目標	30点 (スタート)	40点	50点	60点	70点	80点	90点 (ゴール)

そして、数学の点数をあげたいと考えたのには**理由がある**はずです。その理由が、「自分のありたい姿に近づくために必要だ!」だから「どうしても達成したい!」(Relevant)となっていたら最高です。それが思いつかない人は、「数学が不得意なままだったら、どうなるのか?」ということを考えてみるのも1つの方法です。少なくとも、**数字と期限**は**入れて**下さい。すると、次のようになります。

1年生の**3月終了**までに数学の点数を**90点**まで上げている。そのために、**6月12日**までに**40点**にあげている。

もうすぐ期末試験です。達成力をつけるために、ちょっと自分の目標を見直してみてください。